

【出題意図】

受験者は看護学を既習し、看護師国家試験受験資格を得ている。看護学全般の知識とその知識をもとに考える力を備えているかどうかをみる。

1

解答例：

愛と所属の欲求：友人や家族などの周囲の人々とかかわりたいという集団帰属の欲求。友人や家庭、会社から受け入れられたい欲求。

2

解答：①2/3 ②13～15 ③20 ④20～30 ⑤2 ⑥100 ⑦130

3

問1

採点基準：Aさんがプリン体を多く含む食品を摂取し、症状から痛風発作がおきていることを述べていること。

解答例：

Aさんは、血清尿酸値が 10 mg/dL と高いことや左足の症状から痛風発作を起こしていると考えられる。この原因として、缶ビール 1050 cc/日を毎日飲酒すること、焼き肉を毎週末食べる習慣があることから、プリン体を多く含む食品を摂取している。AさんのBMはが 22.6 で標準であるが、コンビニエンスストアの弁当等の食事による高カロリー摂取の習慣はやがて肥満や塩分の過剰摂取につながり、高血圧、脂質異常症のリスクも持っている。

問2

採点基準：痛風に対する生活指導が記載できていること。痛みへのケアについての記載も加点する。

解答例：

プリン体を多く含む食品（特にAさんの場合はビール、焼き肉）を控えることを勧める。アルコールは尿酸値を上昇させるため、控えることを勧める。

痛風発作の痛みは、強く、尿酸排泄促進薬の処方により、落ち着くと考えられる。

4

問1

採点基準：下記からいずれかを記載していること。

解答例：

呼吸器合併症、手術後の疼痛、後出血、深部静脈血栓症、肺梗塞、循環不全 等

## 問2

採点基準：人工肛門の管理について必要な内容が記載できている。

解答例：

確認する情報：セルフケアの支援者の確認（一人で人工肛門の管理を行うか）

手技の習得が可能か（認知能力, 手指, 視力等に問題はないか）

費用負担が可能か

指導内容：ストマの観察, ストマ周囲の皮膚の観察, ストマ及びストマ周囲の皮膚の清潔方法, 面板の貼り付け, ストマの採寸, 面板の中心にストマのサイズ合わせた穴をあけること, パウチ交換, 排泄物の排出方法

## 5

採点基準：以下の具体的支援の中から3つ述べられていること。

解答例：

### 1) 退院後の生活に対する本人・家族の意思決定支援

- (1) 看護師は、Aさんの身体機能や心理状態、セルフケア能力、必要な介助量を適切にアセスメントしたうえで、Aさんや妻に対して、退院後どこでどのように生活したいと考えているのか確認する。
- (2) Aさんの場合、これまで子どもを交えて、今後の店の経営や老後の過ごし方について話しをしたことがない状況であった。Aさんが、家族と今後について話し合う機会がもてるように、話し合う場の設定を行うことも必要である。
- (3) MSWと連携し、デイサービス・デイケアなど、介護保険制度や社会参加を促進する社会資源について情報提供を行う。

### 2) 再発予防とこれからの生活についての学習支援

- (1) Aさんは高血圧を有するため、減塩食についての栄養管理や服薬管理が必要となる。しかし、発症前には、健康診査後の未対応がみられ、健康管理が不十分な状況であった。そのため、再発予防に向けて、Aさんが自身の健康課題をどのように捉えているのかを聞き取り、管理栄養士や薬剤師などと協働し、今後の健康管理の方法を妻と一緒に考えることが必要である。
- (2) Aさんと妻にとって退院後の生活についての疑問や不安は大きい。機能障害をもちながら自宅でどのように生活すればよいのか、入院中に他職種と一緒に自宅訪問したり、試験外泊を行ったりしながら、安全に自立して動ける療養環境を検討する。

### 3) 退院後の生活を支える在宅医療・介護チームとの連携・情報共有

- (1) Aさんは発症前のように仕事に携われないかもしれないが、店での接客をすることは可能かもしれない。Aさんが役割をもって生活を送ることができるための可能性を探り、その実現に向けて調整を行うことが重要である。

(2) 妻が一人でAさんの介護を担うのではなく、社会資源を活用するとともに、在宅医療・介護チームとの連携・情報共有を図り、長女などの協力を得て介護体制を確立できるよう、情報収集及び退院の調整を行う。

6

解答例：①生活 ②医療 ③健康問題 ④情報提供 ⑤主体的

7

採点基準：以下の具体的な療養生活の指導の中から述べられていること。

解答例：

1) Aちゃんに必要な療養生活の指導

喘息悪化の症状と対応，体調の悪化を親に伝えたり，受診をするタイミング，吸入や内服薬を続けることが大切なこと，日常生活で喘息発作が予防できる工夫などを5歳の子どもが理解できるようにわかりやすく説明する。

2) 家族に必要な療養生活の指導

・療養生活に対する支援

子どもの症状の観察ポイントや病状悪化時の対応，受診のタイミングなどをわかりやすく説明する。また，日常生活での喘息発作の予防の工夫，症状出現時の対応，日常の服薬状況や吸入の継続の重要性，効果的な吸入方法についてわかりやすく説明する。

子どもが自分でできることは自分でやろうとする姿勢を育みながら，セルフケアの主体を少しずつ親から子どもへ移行し，最終的には子どもがセルフケアを確立していけるようにかかわる。

・育児支援と健康教育

家族にとって外来受診時は医療者にさまざまな相談ができる機会にもなり，外来が育児支援の役割を担うことが可能となる。そのため，受診のタイミングや家庭でのケア方法について丁寧に対応することで，不安の軽減をはかる。

8

解答：①ハ 280 ②ク 18～20 ③二先天性心疾患 ④ス臀部 ⑤ツ 初 ⑥又 10  
⑦ウ プロラクチン ⑧サ 子宮復古 ⑨フ IgA ⑩オ 6～8

9

問1

解答例：

強迫行為をやめられないこと，生活上のこと，今後のことなどの不安を傾聴する。

手荒れに対するケア。

強迫行為に意味がないことは患者自身も自覚しており、「強迫行為に意味がないことを伝える」は誤り。

## 問2

解答例：

母親自身の休息を促す。

誰にも病気の原因はないことを説明する。

病気は良くなることを伝える。